

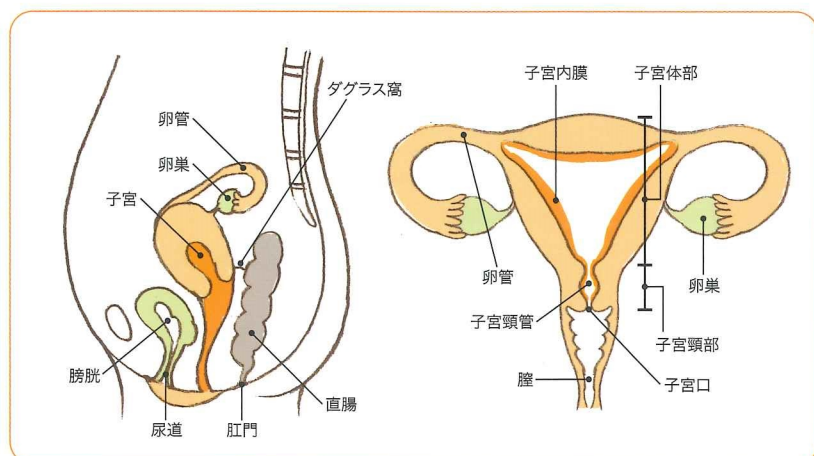
子宮

箇所によって、
病気・症状はさまざま。

赤ちゃんをはぐくむ子宮。卵巣では女性ホルモンを分泌するなど、女性の身体にとって大切な器官です。生理痛や出血量など、生理がいつもと違うなどを感じたら、まずは婦人科へ。

子宮のしくみ

子宮は骨盤の中にあり、筋肉でできている。大きく子宮体部と頸部に分かれ、両側にある卵巣は女性ホルモンの分泌や排卵をする。



[監修]
鈴木 直 先生
聖マリアンナ医科大学産婦人科学教授

子宮内部にできる ホルモンが原因のがん 子宮体がん

しきゅうたいがん

症状

初期は自覚症状がない。不正出血や月経異常、下腹部痛など。

こんな人は要注意

肥満・糖尿病・高血圧など生活習慣病の人や、出産経験のない人、乳がん等の疾患でホルモン療法をした人など。

治療

子宮全摘が原則。

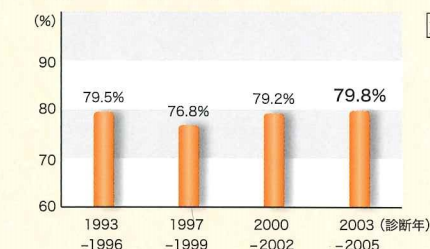
「子宮内膜がん」とも呼ばれる、子宮の内部にできるがん。女性ホルモンなどの影響を受けるとされている。もともと閉経後の女性に多く、晩産化・少子化によって30～40代の患者も増加。子宮頸がん検診では見つけられないので、別途検査が必要。

○子宮体がんの罹患患者数・死亡者数



〔資〕 国立がん研究センターがん対策情報センター

○子宮体がんの5年相対生存率



〔資〕 全国がん罹患モニタリング集計 2003-2005年生存率報告(国立がん研究センターがん対策情報センター, 2013) 国立がん研究センターがん研究開発費「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」平成22年度報告書

ウイルスが原因のがん 進行はゆっくりなので、早期発見がカギ 子宮頸がん

しきゅうけいがん

症状

がんになる前段階では自覚症状はほとんどない。がん早期は不正出血、おりものの増加など。進行すると腰や背中への痛みも。

こんな人は要注意

主にセックスで感染するので経験の多い人は確率が高くなる。20～30代で急増している。喫煙者は要注意。

治療

がん細胞の切除が原則。進行すると子宮全摘の恐れもあるため、定期的な検診で早期発見が望ましい。早期発見できて円錐切除であれば、子宮を残して妊娠・出産も可能。

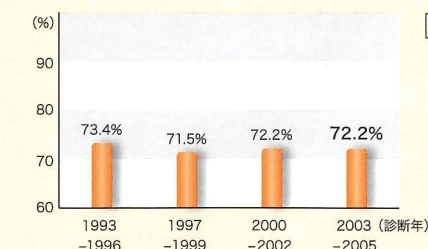
子宮の入り口(頸部)にできるがん。セックスを通じてヒトパピローマウイルス(HPV)に感染するのが主な原因。ただしウイルスに感染しても90%以上は一過性で、もともとカラダに備わっている免疫の働きによって消滅する。ごく一部が持続感染し、5～10年かけてがん化する。検診によって、がんになる前の状態でも見つけることができる。

○子宮頸がんの罹患患者数・死亡者数



〔資〕 国立がん研究センターがん対策情報センター

○子宮頸がんの5年相対生存率



〔資〕 全国がん罹患モニタリング集計 2003-2005年生存率報告(国立がん研究センターがん対策情報センター, 2013) 国立がん研究センターがん研究開発費「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」平成22年度報告書